昭和53年9月5日
広報あじす　毎月5日　発行
お知らせ版　毎月20日
山口県吉敷郡阿知須町
発行　阿知須町役場
電話 4111番㈹・〒754—12
印刷　阿知須砂郷　よしの印刷

広報あじす

№.322

町の住民登録人口
(53年8月31日現在)　前月比
世帯　2,173世帯　＋3
人口　8,287人　＋9
(男3,919人　女4,368人)
(国勢調査　昭和50年10月1日)
世帯　2,113世帯
人口　8,137人
男3,771人　女4,366人

みんなで築こう豊かな老後

「老人問題は私たち自身の問題」

九月十五日は「敬老の日」です。この日から老人福祉週間が始まります。わが国は世界でもトップクラスの長寿国、つまり「老人問題」は私たち自身の問題なのです。

私たちひとりひとりが、豊かな老後を過ごすためにはどうしたらよいか。世代を超えた連帯と話し合いの輪をひろげる必要があるといえましょう。

八割は子どもと同居を望む

老人の半数以上は働いている

老人に関する調査から

九月十五日の「敬老の日」から始まる老人福祉週間を前に、町教育委員会が昨年実施した「老人の日常生活の実態や考え」についての老人に関する調査がここにあります。老人の考え全てではありませんが、一端をのぞいてみることにしましょう。

町内の六十歳以上の老人クラブ員七百六十四人を対象に調査票を配布、このうち回答のよせられた五百五十八人（回収率七三%）についてまとめたものです。

調査は無記名で、老人の①「子どもたちとの同居状況」②「老後生活の生計」③「老後生活の責任は誰と思うか」など十項目に分れた質問になっています。

回答のあった人を一〇〇としてパーセント（%）で計算したもので、（　）内の%記号は省略しています。

＝(1)老人と子の同居状況＝

ア同居している　（七九・六）
イ別居している　（一六・八）
ウ子どもがいない（三・六）

老人の約八〇%は子どもと同居し、年齢を増すごとに同居率が高くなっている。核家族化に伴ない高齢者世帯も増加している。

＝(2)老後生活の生計＝

A自分の収入で暮している
（六二・〇）
ア就労している（一七・七）
イ年金・恩給（三〇・五）
ウ財産収入（　八・四）
エその他（　五・四）
B自分の収入で暮らせない
（三八・〇）
ア同居の子の扶養（三一・一）
イ別居の子の扶養（四・七）
ウ子以外の人扶養（〇・四）
エ生活保護その他（一・八）

老後生活で自分の収入で暮らしている割合は六二%、その中で年金、恩給で生活している者が半数

＝(3)同居を希望するか＝

ア希望する　（八八・九）
イ希望しない（一一・一）

若い世代は同居希望は減少しているのに対し、年齢増すごとに同居の希望が強い。八十歳代は九四・一%になっている。

＝(4)老後生活の責任は誰か＝

ア家庭の責任（六二・四）
イ自己の責任（一七・七）
ウ社会の責任（一四・九）
エその他　（　三・九）

老後生活の責任は家庭としている。若い世代では扶養意識も減退

＝(5)現在の就業状況＝

A就業している（五六・一）
ア自営業　（二九・四）
イ家族従業者（一九・九）
ウ雇用者　（　三・九）
エその他　（　二・九）
B就業していない（四三・九）

高齢者の男の六割は働き、その半数は農林漁業等の自営業。

＝(6)就業についての考え＝

ア働いた方がよい（六二・五）
イのんびり遊んだ方がよい
（三一・〇）
ウその他　（　六・五）

全国調査では、働いた方がよいが九〇・六%、これと比較すると勤労意欲が低い。

＝(7)健康状況について＝

ア元気である　（五五・〇）
イあまり元気でない（三一・四）
ウ病気がち　（一一・六）
エ半年以上病床　（　二・〇）

老人四割強が健康でないと回答している。

＝(8)悩みと生きがい＝

A老後生活上の悩み
ア健康上のこと（六二・六）
イ経済的のこと（一八・三）
ウ家族のこと　（一一・八）
エ住宅問題　（　三・二）
オ仕事のこと（　一・八）
カその他　（　二・三）
B生きがいを感じること
ア家族のこと　（六七・七）
イ仕事のこと　（　九・五）
ウ趣味・娯楽　（二〇・一）
エその他　（　二・七）

＝(9)現在趣味をお持ちですか＝

ア趣味あり　（四七・七）
イ趣味なし　（五二・三）

趣味・娯楽のない者が半数以上

＝(10)老人福祉施設は必要か＝

ア必要とする　（六六・三）
イ必要としない（三三・七）

以上が老人に関する調査結果です。平均寿命の伸長による高齢者の余暇時間の増大、核家族化に伴う老人世帯の増加が生じており、老人が孤独からどう解放され、老後の積極的な生きがいをどのように見い出していくかが今後の重要な問題といえましょう。

あじのす大学に学んで

古田　隆助さん
（七三歳）東区

さきの県老人福祉研修大会で発表されたスローガンは「心の通う福祉」を県民こぞって実践推進しょうということでした。年金や福祉施設の増設のみで福祉問題事足れりでは、•何か•が欠けており十分ではありません。この•何か•が「心の通う福祉」と思います

幸いにして、私たちの勉強の場「あじのす大学」では年間学習のプログラムを決めて時事問題、町政、交通安全、健康管理、一般の教養講座に加えて趣味の講座、レクリエーションと数多くのことが実施されています。

私どもは、心静かに諸先生方のお話を聞いて勉強することにより心にゆとりが出来、物事を素直に受入れる素地をつくり、孤独になることもなく同年輩の心の輪も大きくひろがり、月一回の講座が待遠しく、楽しみです。

この教室へ多数の方が参加され余生を新しい生きがいのあるものにされたらと思います。

網田　ヒサコさん
（六九歳）繩北

月一回の「あじのす大学」は本当に待遠しい。

これといった仕事もない私、書くことはもちろん、最近は聞くことのむずかしさをつくづく感じています。

講師のお話も一生懸命聞いてはいますが、右から左へ筒抜けで申訳なくおもっています。

でも、家庭にとじこもっていてはと、仲間の集まる大学に毎回出席しています。

みなさんどなたも思いは同じらしく、出席率は大変良好。特に芸能大会、体育大会等は待ち遠しい

今後一層、健康に留意し、楽しく語り合える学び舎に努めて参加しようと思っています。

敬老会招待七〇四人

九時半から阿中体育館で

九月十五日は敬老の日、この日町では、多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝って、七十歳以上の老人七〇四人（男二六八人、女四三六人）を招き敬老会を開催します

（九十歳以上の高齢者）

哥川	スエ	明治十七年	河内
戎谷	賢蔵	十八年	岡
杉永	キクノ	〃	旦北
辻田	キク	十九年	岩辻
浜西	サツ	二十年	繩北
藤田	梅吉	二十一年	引野
河崎	トシ	〃	浜表
繩田	末来	〃	恵比須
林	クニ	〃	築地

（今年度米寿を迎える人）

藤本	イワ	明治二十三年	南祝
砂村	ムメ	〃	砂二
浜西	新治	〃	北祝
上野	ツイノ	〃	岩上
繩田	ミキ	〃	砂三
浜西	ユリコ	明治二十四年	北祝
谷川	サミ	〃	繩南
網重	清十	〃	繩北
村長	スエノ	〃	仙在

老人パワーを生かそう

（高齢者人材活用事業）

指導者として社会教育の現場に

多くのお年寄りの声に耳を傾けてみると、お年寄りの願いは、決して年金の増額や老人ホームの処遇の改善だけではないことがわかります。

お年寄りの方々は長年培った知識、技術、人生経験を生かして社会の一員としての役割をはたしたいと願っています。

お年寄りは社会性をもった積極的な生き方を模索しているのです。生きがいとは、自分自身を精一杯生かすことではないでしょうか。

そこで、町教育委員会は、昨年調査した人材相互開発個人カードを参考にして、長年培った知識や技術などの優れた能力をもつお年寄りの方々の力を社会に還元していただこうと、お年寄りの人材活用事業を九月から実施することになったわけです。

具体的にいいますと、この事業を実施する町教委が、優れた知識や技能をもつお年寄り（たとえば竹細工、わら細工、保存食、盆栽花づくり等）を募り、応募者には社会教育の指導者として必要な知識、技術について、二十時間程度の研修を行います。受講後は指導者として登録し、子ども会や婦人会、老人クラブなどの社会教育活動や、郷土史、時事問題、手芸などの学習活動の指導者として活躍していただくわけです。

研修内容はつぎのとおり。お年寄りの方々の積極的な参加を期待しています。

「社会教育とは」
「レクリエーション指導法」
「話合いの方法」
「視聴覚機器の利用法」
などを各二回づつ受講。

お知らせ

九月二十四日 町内球技大会

ふるってご参加下さい

第二十七回町内親睦球技大会がつぎのとおり開催されます。地区対抗戦です。ふるってご参加ください。

日時　九月二十四日（日）午前八時開会。雨天は十月八日に

競技方法　十五地区対抗トーナメント戦

参加資格
○一人一種目
○中学・高校生は出場できない

種目及びルール
▽一般バレーボール
○チーム中、女子三名以上
○ネット二㍍三〇㌢
▽婦人バレーボール
○既婚婦人で編成
○ネット二㍍五㌢
▽ソフトボール
○チーム中三十五～三十九歳三名、四十～四十四歳三名、四十五歳以上一名、一般女子二名。
▽卓球の部
○男子二名、女子一名で編成
▽インディアカ
（男子）三十～三十九歳二名、四十～四十九歳一名、五十歳以上一名。
（女子）二十～二十九歳一名、三十～三十九歳二名、四十歳以上一名。

得点　各種目とも得点制とし、優勝七点、準優勝五点、三位三点、四位以下一点。

申込み及び打合せ
申込みは二十日まで、二十二日午後五時から打合せ及び抽せんを行う。くわしくは町教委内体協事務局へ。

9月のメモ

8日　婦人学級（社会見学）
12日　育児相談（後1時半）
13日　料理教室（前9時半）
14日　心配ごと・年金・交通事故相談（前10時）
〃　園芸教室（後1時半）
15日　敬老会（前9時半・阿中体育館）
16日　少年教育講座（後2時半）
19日　1歳6か月児健康診査（後1時）
〃　三種混合（後2時半）
20日　幼児学級（前9時半）
21日　手芸教室（後1時）
21～30日　秋の交通安全運動

（会場の記入のないのは役場）

今月の納税

○　国民健康保険税

ぼくの学校 わたしの学校

（阿知須小）
9日　校内水泳記録会
12日　集金日（P）夏休み展
18日　貯金日
21日　参観日
26日　運動会予行練習
30日　〃　会場準備
10月1日　秋季大運動会
2日　ふり替え休日
5日集金日（給）

（井関小）
6日　参観日　集金日
9日　プール納め（記録会）
16日　ふるさと学習
18～30日運動会予行
26日　貯金日
30日　運動会会場準備
10月1日秋季大運動会
2日　ふり替え休日

（阿知須中）
7日　身体測定（男）
8日　〃　（女）
13日　体育大会予行
17日　体育大会
18日　ふり替休日
25日　貯金日簡易保険納入日
10月1日　秋季県体
2日　身体測定（男）
3日　〃　（女）
5日　諸会費納入日

住宅統計調査にご協力を

十月一日現在で全国いっせいに実施

五年に一回実施される「住宅統計調査」が十月一日、全国一せいに行われます。

この調査は、住宅・世帯を対象とした「住宅の国勢調査」といわれるもので、みなさん方の住宅や世帯の構成など、四十二の項目について調査が行われます。

九月二十四日から三十日までの間に、県知事が任命した調査員が各家庭を訪問し、調査票を配って記入をお願いします。正しくご記入のうえ、十月一日から七日までに再び調査員が訪問しますので、お渡しください。

調査した事柄は、統計をつくるためだけに使います。調査員や関係者が他に漏らしたりすることは法律によってかたく禁止されています。

安心して、正しく申告してくださるようご協力をお願いします。

なお、調査に関する問い合せは担当調査員か総務課企画係へ。

善意はここに

（社会福祉協議会へ）

◇香典返し▽五万円＝西村孝さん（岩辻）は父末雄さんの。▽五万円＝岡本芳男さん（旦東）は妻チエ子さんの。▽三万円＝塩部義紀さん（小東）は母キサ子さんの。▽二万円＝竹重基行さん（円松）は妻純子さんの。

◇一般寄付▽二千二百五円＝前山区盆踊りの焼香料を。

（町へ）

◇広報紙送料▽三千円＝弘中英治さん（埼玉県鳩ケ谷市桜町一の二の十一・東区出身）▽鯉＝磯中忠一さん（河内）は鯉を数百匹役場前の噴水池に。

九月二十一日～三十日
秋の交通安全健民運動
「ゆとり」と「ゆずり合い」の心で安全運転

楽しかった夏休みも終わって子どもたちは新学期。これまでの開放的な毎日から生活のリズムが変わり、注意力が散漫になって、交通事故に結びつきやすくなります。また、お年寄りも外出の機会がふえ、交通事故にあいやすい時期です。

そこで、今年も九月二十一日から十日間、全国いっせいに「秋の交通安全運動」が展開されます。

今年のテーマは「歩行者及び自転車利用者、特に子どもと老人の交通事故防止」「安全運転管理の充実と安全運転の促進」の二点です。

交通戦争の〝弱者〟は子どもとお年寄り

子どもとお年寄りは、自動車の前では〝弱者〟そのものです。

警察庁発行の「交通統計」をみますと、歩行中に自動車にはねられて死亡した人は、昨年一年間で二千九百六十一人にのぼっていますが、このうち九歳未満の子どもと六十歳以上のお年寄りの数は、合計で千八百九十六人、実に六四%にも達しています。

また、歩行者では、人口十万人当たりの死亡率を年齢別にみますと、若くて動きの活発な十五歳から十九歳の少年はわずか〇・三人、二十歳代前半でも〇・六人にすぎません。

これにくらべて、五歳未満の子どもは四・六人、七十歳以上のお年寄りになると急激に増えて、十二・七人にもなっています。

一方、歩行中の負傷者数をみても死亡者と同じ傾向が出ています。九歳未満の子どもが全負傷者の約半分を占め、これに六十歳以上のお年寄りを加えると、約六五%にもなります。

交通戦争の被害者は、まさに子どもとお年寄りといえます。

自転車のり方大会
寺浜が初優勝飾る

交通安全協議会主催の自転車のり方競技大会が八月十日、中学校体育館で行われ、町内の小・中学生や大人ら十人で編成した八チームが参加、地区対抗で競いました。

方法は左右の確認、右折・左折の方向指示、発進・停車の合図などが確実に守られているかなど安全運転について小さなところまで審査。

一二〇〇点満点のうち、寺浜が一〇四五点で初優勝。ついで赤浜九八四点、砂郷八九八点、以下東条、岩倉、旦岡、飛沖、引野の順でした。

個人賞は各ブロック最高得点者から選び、つぎの四人に授与された。井本慶子（岩倉）野村晃一（寺浜）小野暎子（寺浜）古川治夫（赤浜）。

なお、六十歳以上に出場した寺浜の田村三正さんは高齢者で最高得点の九九点をマークし敢闘賞が贈られた。

＜講評＞
自転車大会を顧みて

小郡警察署交通係長

自転車は私たちにとって、手軽で、便利な乗物ですが、交通量の多い道路などでは、いつでも安全というわけにはまいりません。

本大会を顧みて、今後気をつけていただきたい点は、

一、信号によく従う。とくに右折のときは二つの信号によって右折すること。

二、踏切では、必ず止まって、自転車から降り、安全を確かめてからおして渡る。

三、「止まれ」の標識のあるところでは、必ず自転車を止め安全を確かめて発進する。

四、合図の不確実が多い。

五、頭をよく動かして安全を確かめる。

命は一つです。今後とも自分の命は自分でよく守り、交通安全のために努力していただきたいと思います。

同和問題解決のために

部落はどうしてつくられたのでしょう
(5)

㈣解放へのあゆみ

解放令以後、部落差別をなくすために、同和地区の住民をはじめ関係者の血のにじむ努力が続けられました。

一八七七（明治十）年の前後から人権の尊重、人間の自由と平等を要求する自由民権運動が起こりましたが、同和地区の住民のなかにも、この運動に参加する人がありました。

また、明治のおわりから、大正のはじめにかけて、同和地区の住民が自主的に生活改善をするとともに、教育の奨励などによって部落差別をなくそうとする運動が起こり、一九〇二（明治三十五）年「備作平民会」（岡山県）がつくられ、翌年には全国組織である「大日本同胞融和会」が生まれました。

このころの政府の同和問題に対する取りくみは慈恵的・恩恵的な考え方によって治安維持と窮民を救済するという消極的な対策にとどまるものでした。差別はますますつのり、同和地区の人びとの生活は困難をきわめました。

一九一八（大正七）年大商人の買いしめにより米の値段がひどく値上りしたために、富山県の一漁村の主婦が「米をよこせ」と押しかけたことがきっかけになって、全国にひろがりました。これが米騒動です。政府は軍隊を出してこれをおさえました。

（文責・阿知須町同和教育推進委員会）

「ゴミの出し方もう一度」
必ず守って下さい！
水切りとビン・カンの出し方

こちらは岡山焼却場です。

日頃各家から出るゴミを力いっぱい焼いてはいますが、一部の心ない人のため大変苦労させられます。

過去、何度もお願いしていることですが、つぎのことは絶対守ってください。

◆・残飯類と一緒に水が沢山入っています。よく水切りをしてください。焼却に要する時間、経費、労力が大変です。

◆・残飯類の袋にビン・カン類が入っています。一緒にしないでください。

◆・ビンは毎月第一・三水曜日カンは毎月第二・四水曜日に集積所に。

◆・直接焼却場に持って行かれる時間は。

月～金→午前七時～正午まで
土曜日→午前七時～午後三時
日曜日→持込みできません。

町民皆んなの焼却場です。長期維持のため以上のことはぜひともお願いします。

交通安全教室
9月20日阿中体育館で

町交通安全対策協議会と小郡交通安全協会阿知須支部は共催で「交通安全教室」を九月二十日（水）午後七時三十分から阿中体育館で開きます。

多数ご出席ください。なお、駐車場は町役場前を利用してください。

子ども会ソフト
鴨生原にがい歌

第二十回子ども会ソフトボール大会は好天に恵まれた、八月一・二日、中学校グランドに全チームが参加し熱戦が展開されました。

一日目は予選一、二回戦で十一試合。二日目は一日目に勝残った四チームによる準決勝、決勝戦が行われた。

二日目は飛沖と前山、鴨生原と玉川の準決勝、その結果、前山と鴨生原の決勝となり、中学生の打撃がまさった鴨生原が九対一で下し優勝しました。

以下準優勝前山、三位玉川、四位飛沖の順でした。

愛の送金ありがとう
社協に毎月五百円を六十回も

感謝状

愛の送金者殿

あなたは昭和四十八年以来毎月のごとく五百円を郵送でしかも匿名にて本会へご寄付くださいましたその善意は今回で五年六十回にのぼりました。ここに本状をもって感謝の意を表しますと共にあなたの善意が社会の人々にさらに広がるよう役立たせていただくことを申し添えます。

昭和五十三年八月十日

阿知須町社会福祉協議会

会長　中尾岩雄

五年間もの長い間、毎月欠かさず五百円を町社会福祉協議会に送金を続けてきた匿名さんに社協会長から贈られた感謝状です。

といっても差出人不明の匿名さんだけに感謝状の受け取り人はおらず、紙上でお礼をのべ、賞状は事務局に保管しています。

送金が始まったのは、昭和四十八年七月から。宇部局消印の封筒宇部新川駅前郵便局受付の定額小為替の封筒が、月末から月初めにかけて社協事務局に届き、今年八月で六十回。

封筒には、手紙などは入っておらず、愛の送金者へお礼のしようがありませんが、せめて感謝の気持ちという意味でこうした感謝状の贈呈となったものです。

（写真は毎月送られた小為替と封筒）

小川君 砂郷三区 高校三年 が二位入賞
県ギターコンクールで

山口県ギターコンクールが八月十三日、下関市民会館で行われ、独奏グランプリ部門で本町砂郷三区、小川崇君＝宇部中央高校三年・幸男さん二男＝が二位に入賞しました。

コンクールは独奏の部に初級、中級、グランプリと別れており、グランプリで二位を獲得した小川君は熟達者の中にあって、腕前は県下でトップクラス。

小学四年生の時、父にねだって七千円のギターを買ってもらい、独学でひき始めたのがギターとの出合い。

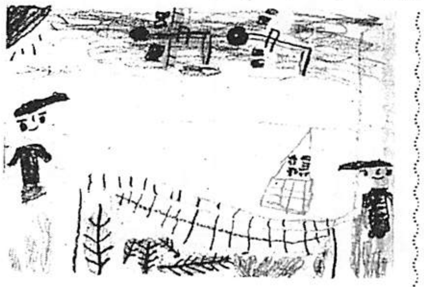
本格的にギターと取組もうと思ったのは中学校時代、高校も習うに都合のよい宇部を選んだほど。が、習い事で誰にでもあるように一時は部屋の角でギターがホコリをかぶっていたこともあるそうです。

最近はピアノなどを習う人は多いが、絃楽となると非常に少ない鍵楽器は鍵をたたけば音が出るが絃楽器は音色を出すまでがむずかしい、だから次第に減ってくる。

今は、十月十日に開かれる九州ギター音楽コンクールで入賞めざして、通学時で五、六時間、夏休み多い時で十一時間もひき続ける人がよく好きですねというが「好きではなく、上手になりたいから……」と。

週一回小倉に、年二・三回横浜にレッスンを受けにいっているとのこと。楽しみは、いろいろの人とギターについて語り合うことだそうです。

（写真はグランプリ部門で二位に入賞した小川君の演奏）


フイールドアスレチック

町立砂合保育園　なかのともなり（6歳）

慶弔録

出　生（おすこやかに）

父の名	続柄	子の名	月日	部落
杉山義明	二男	修三	7・21	砂一
古川　巧	長男	旭	7・26	浜表
縄重久佳	三男	朋典	7・26	小南
潮崎宏子	長女	聖織	7・30	恵比須
田辺利治	長男	哲也	8・5	砂三
村田敏明	二男	陽一	8・6	飛石
松本浩次	長男	浩之	8・9	井関
上野幸治	長男	彰	8・15	岩前
工藤恭二	長男	裕治	8・16	飛石

婚　姻（おしあわせに）

吉岡英二　飛石
敏子（浜中）縄南

香川　章　山口市
通子（浜中）砂三

死　亡（ご冥福を祈ります）

氏名	月日	年令	部落
中村　ユキ	7・31	90	井関
竹重　純子	8・12	34	門松
広橋　英次	8・19	80	引野

町職員人事異動

町教育委員会は中尾雪蔵町史編さん事務局長の退職にともない八月一日付でつぎのとおり人事異動を行いました。

町史編さん事務局長　中野真琴

みんなの広場

あなたの文芸作品やご意見、お気づきのことなど未発表のものをお寄せください

短　歌

砂三　藤永ミツノ
滋賀の寺に昔点りし高き燈明又点りしを人等喜こぶ

旦東　木原百合雄
古き友といで湯にひたりいこいつつ昔語りに酒酌交す

小西　藤重アヤ子
貝掘りて帰る干潟の夕暮れて声わびしくも千鳥鳴きゆく

小西　平浦アサノ
古矮鶏の夜明けを告げる午前四時夢たどりつつ寝返りをうつ

小西　徳本　喜一
残業の帰りに友と呑みし酒ききてふらつき腕すりむきぬ

源河　三吉　琴
花終へて忘れてねたりしクレマチスひげ立て青き実を結びをり

浜　正司ウメノ
炎天のつづく真昼に聞えくる福祉病舎の杭打ちの音

北祝　原田　双恵
子守り役のわが目のがれて幼らはせせらぎに降りて小魚追ひをり

小東　松尾　君代
豆入れてとうしをゆすれば音哀し風吹く露地に母の立つごと

砂一　田村　艶子
宮野に住む子に招かれて行く道の空気のうましと思いつつ歩く

砂三　桜井　文子
軒下の蜂歩みつつ風に鳴る豆がらの音ふり向きており

南祝　長谷川さつき
さわさわと野を渡る風夕づきて坂の木立ちにひぐらしの鳴く

飛石　砂村ヤス子
暑き日にもの念ひつつ来し家に主は冷たき薄茶下さる

砂三　渡辺　宮子
明けやらず冷めたる砂丘登りつつ斜面をすべる砂の音聞く

源河　村井　薫
家建てし汝に贈らむ玉いぶき掘りでやさしく根を包み居り

浜　石田サダ子
景品のペーパー高く穂み上げて狭き作業場の窓ふさがれぬ

岩西　中本　幸枝
簞笥の底にたたみてありし絣の長着年経し今も母のしのばる

砂一　松代　二郎
人けなき校長室の黒板に一事入魂と書かれてありぬ